



The FINAL LECTURE

Professor Michiyuki Matsuda

ニワトリがんウイルスから

情報伝達可視化へ

松田 道行 教授

京都大学 生命科学研究科/医学研究科

2024年3月19日|火|

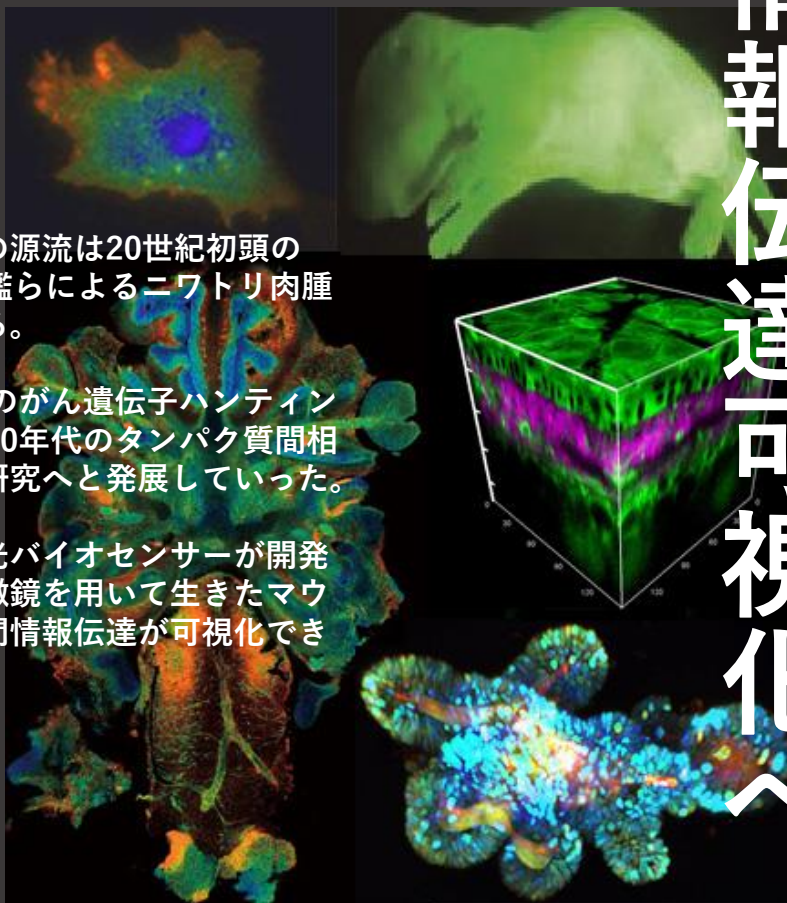
16:00~17:00

開催方法:オンライン(Zoom)

細胞内情報伝達研究の源流は20世紀初頭の
Peyton Rousや藤浪鑑らによるニワトリ肉腫
ウイルスの発見に遡る。

この研究は1970年代のがん遺伝子ハンティン
グの時代を経て、1990年代のタンパク質間相
互作用ネットワーク研究へと発展していった。

世紀が変わる頃に蛍光バイオセンサーが開発
され、今や多光子顕微鏡を用いて生きたマウ
スでの細胞内・細胞間情報伝達が可視化でき
る時代となっている。



<開催方法>

事前申込制/オンライン(Zoom) **参加費無料**

<セミナーに関するお問い合わせ先>



株式会社 **ニコン ソリューションズ**

バイオサイエンス営業本部 営業企画部
E-mail: Nsl-bio.Marketing@nikon.com

セミナー申込みは [こちら](#)

